

『第4回理科教育賞』の各賞が決定いたしました



公益財団法人日産財団 第4回理科教育賞の選定 <講評>

選考委員長 西本 清一



日産財団は、「理科教育助成」プログラムを通じて、小・中学校、幼稚園、団体（助成校等という）から提案された理科教育の創意ある実践課題を選定し、理科教育の質の向上をめざした取組を支援している。選考委員会は、各助成校等における2年間の取組実績を事後評価し、他校へも波及可能なGood Practice（すぐれた取組実績）をあげた助成校等に「理科教育賞」を授与している。

選考委員会では、2013年度「理科教育助成」の対象に選ばれ、2014～2015年度の2年間の取組を終えた神奈川県11件、福岡県7件、栃木県4件、福島県10件、合計32件から提出された成果報告書による書面選考を経て、第4回理科教育賞大賞候補4件を選定した。これら4件による成果発表会が7月27日、新横浜プリンスホテルで開催され、理科教育の実践を通じて優れた成果をあげた1件を『理科教育賞 大賞』に認定した。また、選考委員会が選んだ理科教育賞大賞候補4件を除く28件の助成校等の成果を発表したポスターセッションにおいて、贈呈式に参加した助成校等の先生や教育委員などの投票により最多得票を得た2件につき、決選投票の結果1件を理科教育賞(ポスターセッション)に選定した。これらの選考過程を経て、下記の各賞受賞校等を決定した。

【第4回理科教育賞 大賞 1件】

**神奈川県 横浜市立井土ヶ谷小学校:** 子どもたちが主体となって協同しつつ学び合う場の構築に努め、自然界で起こる諸事象の本質を読み解く力の涵養を目指した授業研究を通じて、理科教育の質の向上に取り組んできた長年に亘る実績が高く評価された。自然事象に対する子どもたちの理解様式には一般に誤概念が多く含まれることを考慮し、子どもたちの学び合いから「学級の知」を導く際に科学的に合理性を欠く理解に対する修正機能を備えた理科教育法の確立に向け、他校にも波及可能なモデルづくりに引き続き取り組んでいただきたい。

【第4回理科教育賞 3件】

**福岡県 福岡市立四箇田小学校:** 子どもたちが接する身近な生活環境から得る気づきの質を高めるための生活科教育、ならびに科学的な思考力や判断力を育てるための理科教育を連動させ、生活科・理科学習指導法の確立を目指した大きな取組を展開した。生活科の学習では、対象と繰り返し係わりを持つ場を工夫して活発な表現活動を促した。また理科の学習では、事象の変化がより顕著に観察できるような実験課題と方法を工夫し、着実に成果をあげる一方で、教育実践の課題抽出に努めた点が評価された。

**栃木県 栃木県小学校教育研究会宇都宮支部理科支部会:** 観察や実験の結果を基に自然現象に潜む法則性を深く考察する活動を喚起することを目指し、教材の効果的な活用法や授業展開法の工夫を図り、質の向上につながる理科教育の研究を大規模に実施した。これらの教育実践を通じて、教科書で扱う代表的な事象を子どもたちの身近で体験可能な事象や事象と関連づけた授業展開が考察活動を促す上で重要な要因になることを示した点が評価された。

**福島県 新地町立尚英中学校:** 再生可能エネルギーに着目した複数の発電システムを手づくりで製作し、個々のシステムで発電量が変化する要因を明らかにするとともに、試行錯誤で発電量を高める工夫に導く実験活動を通じて、生徒たちが実感を持って発電の原理を理解し得る理科教育を展開した。これらの自作した発電システムを用いて得られた電気エネルギーを定量化し、数値データの解析からエネルギーについての理解を深め得る理科教育の試みが評価された。

【第4回理科教育賞(ポスターセッション) 1件】

**神奈川県 学校法人長塚学園伊勢原八雲幼稚園:** 園庭に設けた土山での遊びを通じて、園児たちが自然環境に触れつつ自由に空想し、個性ある工夫や見立てを伴った遊び空間を構築した取組と実績が評価された。

<大賞>

— 盾と副賞 100万円—

神奈川県 横浜市立井土ヶ谷小学校

『自然を読み解く力を育てる表現と学び合い  
～子どもがひろげる躍動的な学び～』



左から 堤達俊校長、田中孝之教諭、  
日産財団久村副理事長

横浜市立井土ヶ谷小学校 校長 堤 達俊

この度、理科教育賞大賞を受賞できましたことを、児童・職員・保護者・地域の方々と共に喜びたいと思います。また、これまでの研究に対し助成をしてくださった日産財団様に深く感謝いたします。本校では、「自然を読み解く力を育てる表現と学び合い」をテーマに、13年間研究を続けてきました。そして、今回は特に「子どもたちがひろげる躍動的な学び」＝ダイナミック学習に力点を置いて研究を行いました。個の学びと集団の学びの往還の中で学級の知がつけられ、また、そこから新たな学びが繋がっていくことがわかってきました。そのような躍動的な学びを支えるのが、校内研究における教師同士の学び合いでした。風通しの良い職場環境をベースにして、わからないことを互いに聞き合い、考える。そのような教師の人材育成の姿が、評価されたのだとすれば大変うれしいことだと思います。今回の受賞を謙虚に受け止め、表現と学び合いを通した理科教育をさらに推進しながら、「子どもたちが主人公の学校づくり」に今後とも取り組んでいきたいと思っています。

<理科教育賞> — 盾と副賞 50万円—

福岡県 福岡市立四箇田小学校 福島県 新地町立尚英中学校



中央 中島健次代表者代理  
右 廣瀬友香教諭



左から 寺島克彦教諭、久村副理事長  
星健一校長、金子伸之教諭

栃木県 栃木県小学校教育研究会宇都宮支部理科支部会



左から 宇賀神郁夫研究部長、石井浩介研究副部長、  
久村副理事長、高山裕一幹事、角田初男会長

<理科教育賞(ポスターセッション)>

— 盾と副賞 20万円—

神奈川県 伊勢原八雲幼稚園



左 林田伸吾副園長

